

小児成育歯科学入門（木本茂成）

Introduction to Dentistry for Growth and Development in Children (Shigenari Kimoto)

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 小児歯科学
- ③ 成長発育
- ④ 歯列・咬合
- ⑤ 口腔機能

関連する学位授与方針

- ①
- ②

関連する教育実施方針

- ①
- ②

授業概要

小児の心身の成長発育に関する基本的な原理と法則について確認を行いながら、健全な口腔機能の育成に不可欠な歯列・咬合の確立における歯および歯周組織の正常な成長過程について修得する。また、小児期の顎・顔面・頭蓋の解剖学と全身の生理的特徴を理解する。さらに、歯胚の発育、乳歯・永久歯の形態的ならびに構造の特徴、歯の萌出機序、顎骨と歯列・咬合の成長発育、歯髄および歯周組織の成長発育を含む形態的な変化と口腔周囲の筋機能の発育による機能的な発達過程について学修し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

臨床研究を検討する能力の基本を養成するため、小児の心身の成長発育に関する基本的な原理と法則について確認を行いながら、健全な口腔機能の育成に不可欠な歯列・咬合の確立における歯および歯周組織の正常な成長過程とそれを阻害する機能障害について修得する。

授業計画

- ① 成長発育期の機能障害
骨格ならびに歯列・咬合の不可逆的な形態異常の原因となる小児期の機能の異常について修得する。
 - ・歯列・咬合の形態異常の原因 2コマ 木本茂成
 - ・頭蓋・顎・顔面の成長発育に関連する口腔周囲軟組織の影響 3コマ 木本茂成
 - ・骨格的な不正要因による頭蓋・顎・顔面部の形態異常 3コマ 木本茂成
 - ・機能的要因による頭蓋・顎・顔面部の形態異常 3コマ 木本茂成
 - ・日本小児歯科学会におけるヒトを対象とした研究倫理規範 4コマ 木本茂成
- ② 成長発育期の機能的な診断
成長発育過程の口腔機能障害を早期に発見するための診断法について修得する。
 - ・小児期における一般的検査の基本 2コマ 井上吉登
 - ・成長発育期における機能的検査の基本 4コマ 井上吉登
 - ・成長発育期における形態異常ならびに機能障害の診断 4コマ 井上吉登
- ③ 科学的根拠に基づく治療計画
機能の改善を図ることにより、頭蓋顎顔面の正常な発育を促すため、科学的根拠に基づく治療方針の選択基準について修得する。
 - ・口腔機能障害に関する治療方針の選択 2コマ 浅里 仁
 - ・頭蓋顎顔面の正常な発育に目指した科学的根拠に基づく治療計画の立案 3コマ 浅里 仁

教科書および参考書

オーラルマイオファンクショナルセラピー：口腔筋機能療法の診査と指導法、わかば出版、William E. Zickefoose 著、山口秀晴・大野肅英・吉田康子・今村美穂 訳
小児歯科学ベーシックテキスト・クリニカルテキスト第3版、永末書店、新谷誠康他編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

小児成育歯科学入門では授業項目と小児歯科学分野の学術論文を熟読することにより、小児期の口腔機能に関する基本的知識の修得が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 成長発育期における小児の機能障害を理解し説明できる。
- ② 成長発育期における小児の機能障害に関する診断法を理解し説明できる。
- ③ 科学的根拠に基づく治療計画の立案方法を理解し応用することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、小児成育歯科学入門の10項目について課題を提出する。3%×10回=30%
- ・口頭試問は、学修項目10項目のユニット終了時に行い知識の理解度を判定する。3%×10回=30%

理想的な達成レベルの目安

小児成育歯科学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。